

飛騨郡代高山陣屋文書② 翻刻

乍恐以書付奉願上候

私共儀、從來飴菓子渡世罷在候処、当春来御一新ニ付、都而渡世向之儀、夫々奉願上候得共、当職之義ハ只今ニ至迄、何共不奉願上奉恐入候、尤右は夫食を費し候業躰ニ付、以来之儀ハ可相成丈仲間家数を減し度、依而元四拾壹軒之内此度七軒相減、尚此上渡世替為致度候得共、残三拾四軒之者共ハ從來仕入向等も手当罷在、急速改業も行届不申、中ニは迷惑之もの有之候間、何卒是迄之通、稼方被仰付度奉願上候、尤稼中御冥加永之義ハ、御差凶次第急度上納可仕候間、何分右願之趣御聞濟被成下置候ハ、難有奉存候、以上

飴菓子渡世

明治元年辰十一月

三拾四人惣代

高山上向町

忠次郎^印

同断

同三之町

吉助^印

右組頭

南部屋

庄兵衛^印

同断

大野屋

彦兵衛^印

商法

御役所

前書願上候ニ付、奥印差上候、以上

里正

川上齋右衛門^印

(端裏書)

「十一月廿五日高山町菓子屋渡世之者願書
本文願之義は米穀ヲ費し不宜職業ニ付、成丈軒数
相減候様致度、尤壱人ニ付冥加永五百文宛取立候而も
可然奉存」

(異筆)

「同意ニ御座候」